

(第1回) 基調講演「幼児期における環境(自然体験)教育とは？」(要約)

1 宇宙船地球号

宇宙船地球号 (Spaceship Earth) とは、地球上の資源の有限性や、資源の適切な使用について語るため、地球を閉じた宇宙船にたとえた、バックミンスター・フラーが提唱した概念・世界観。「地圏」、「大気圏」、「水圏」、「生物圏」という4つバランスによって成立⇒「生物圏」の種のひとつであるヒトが、約1万年前に農業を発明⇒約2000年前に近代工業化へ歩みだし、他圏に大きなインパクトを⇒他圏を席卷して拡大し、船のバランスが崩れ続け、その浮沈に関わる問題となっている。

今、“宇宙船地球号”を語る時、「地圏」、「大気圏」、「水圏」、「生物圏」に加えて、5つ目の要素、「人間圏」をどう位置づけていけばよいのかということが環境問題である。環境問題とはヒトという種、つまり私たち人間のあり方を問うことである。

2 地球環境問題

環境問題は今世紀最大の重要課題であり、人間の都合で自然をこわしてはならない。では、どうすればいいのだろうか？環境問題へのアプローチはみつがある。

ひとつめは法規制。環境(自然)に優しいルールを作ることである。ふたつめは技術開発。環境(自然)に優しいテクノロジーを開発することである。みつめは教育。環境(自然)に優しい人間の生き方を学ぶことである。

3 幼児教育における環境教育

では幼児教育における環境(自然)教育とはどんなものだろうか？そのキーワードはふたつある。

キーワード1 「人間は興味や関係のないものは大切にしない」

キーワード2 「だったら子どもの生活や遊びが自然への興味や関心に満ちたものであること」

そしてさらに、豊かな自然体験は、幼児期の子どもにとって最も大切な育ちの基礎でもある。

4 子どもが育つということ

子どもが育つということは、自分と他との関係性(関わり方)を知り、自己確立していくことである。そして子どもはその関係性の多くを環境との相互作用、つまり実体験によって獲得していく。その実体験が豊かに成されるためには、五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)を豊かに使って、まわりの環境に働きかけ、働き返されるということが重要である。

子どもが最も豊かに五感を使って“育つ”環境は自然である。子どもの遊びや生活のなかに、自然とのつながりを構成していくことが大切なのである。

5 動物としての人間

忘れてはいけないこと、それは人間も動物だということ!!人間も「ヒト科ヒト属」という生き物であり、同じヒト科としての遺伝子(DNA)から見ると、オランウータン96.4%、ゴリラ97.6%、チンパンジー・ボノボ98.8%ヒト100%である。

さらに発生してから700万年の人類の生活は、長い間、森(自然)のなかで五感を使って生き残ってきたといえる。

6 発生から現在までの人類

人類史700万年を1日(24時間)に置き換えてみると、700万年=24時間、1万年=123秒、100年=1秒となる。

この縮尺で見ると、23時間58分(698万年・2分前)までは森で木や草や虫を採って食べたり、狩をしたりして生活していた。そして23時58分(698万年前・2分前)に農業を発明して、食べるのに困らなくなった。さらに23時59分58秒(699万8000年前・2秒前)に産業革命が起こり、近代工業化が進んで、便利になった。

24時間(86400秒)のうち、23時間58分(86280秒)間は狩猟・採取。2分(120秒)間は農業・牧畜。近代工業化した生活はわずか2秒に過ぎない。

視点をかえれば、現代という2秒の経験の危うさも見えるのではないか？そしてこの2秒の人類の営みが環境に大きなインパクトを与えていることは否定できない。

7 現代の子どもの生活

こうしてみると、ヒトというサルである私たちは、ずっと森(自然)の中で生きてきた。だから、森(自然)は私たちのふるさとで、とてもなつかしくて、たのしくて、たいせつなところであり、子どもが人格の基礎を形成する幼児期の自然体験は欠かすことのできないものである。

しかし、現代の子どもは都市化した環境であって、五感を使うことが少なく、自然とのつながりが感じられ

ない生活のなかにあるといえる。

8 幸せの価値観をかえる

今まで求めてきた幸せの価値観は物の豊かさに片寄りすぎていたのではないだろうか？

たとえば自動車を作るということは、利便性、効率性、均一性（速く、思い通りに、手早く...なるべく手間過程を省いて結果を出すこと）を求め、その果実としての経済力に豊かさを見出す。

反面少し前の、たとえば米を作るということは、米（八十八の手間）という生き物を育て、春に植えて、手をかけ、秋に穫る。自然相手で効率が悪く、結果は様々。ならばいっそ生産せずに経済力に頼って輸入とする。

こんな図式を子育て・教育にあててみる。すると子どもを生み、育てるということは、物の豊かさ（経済力）に向けられた価値観に偏るあまり、教育や子育てにも利便性、効率性、均一性（速く、思い通りに、手早く、なるべく手間を省く）ということが求められてきたのではないか。

少し前の時代までは、子どもは“生まれてくるもの”だったが、今は“作るもの”になった。“作ったもの”であれば、利便性や、効率性、均一性を求めてしまう。思い通りにならなくて混乱してしまうのが子育て不安なのかもしれない。

子育てや教育に利便性や、効率性、均一性を求めてはいけない。なぜならそれは子どもを“生き物”ではなく、“製品”として見ていることに他ならないからだ。

幼児期の環境（自然）教育は生活や遊びという実体験による自然と自己の同一化である。このことの実現が一人ひとりの子どもの生きる力の基礎を育み、同時に環境（自然）教育の始点を成すのである。

※ 参加者の感想・意見

・普段保育の中で自然を大切にしている園なので、この研修で学んだことを活かせるよう考えてみようと思います。環境(自然)は大きくて深いなと感じた。

・最近虫が少し触れるようになりました。触ってみて初めて嬉しさや感触が伝わってきました。その喜びを子ども自身に感じて欲しいと思いました。

・「幼児期における環境(自然体験)教育とは？」研修ありがとうございました。

私は一年目の宿泊研修の時にも牧原先生からお話を伺っていました。その時も年長児の男の子が「バッタが逃げちゃうから草刈なんてしちゃダメ！」ということを言われたということをお話してくださっていて、とても印象的だったことを覚えています。大人はいろいろ見た目などを気にして、環境を作り上げようとしてしまいがちだと感じました。子どもたちと育っていくにあたって、できる限り自然の豊かな体験ができるように考えていきたいと思いました。

・月や週のねらいに、自然に興味や関心を持つなどの内容がありますが、そのことについて、いつもどう子どもたちが関わっていったり興味を持ったりしていけるのか、ということを考えているつもりでは、ありましたが、改めて自然の大切さや、おもしろさ、知ることのおもしろさを子どもたちにも伝えていきたいし、私自身、感じていきたいと思いました。2、3回の研修で、実際に体験できることを、楽しみにしています。

・参考にさせていただきたいことばかりでした。次回も楽しみにしています。

ありがとうございました。

・子どもたちと関わる中で、自然の面白さに気づいて私たちにも教えてくれたことも、もしかしたら共感できていなかったかもしれないと、自分の保育を振り返って感じました。植物や生物と関わることを大切にしながら、今後の保育に繋げて行こうと思います。私たちと同じ生き物と一緒に生活をする、という気持ちを大切にしたいと感じました。今回の研修で教えていただいた、生き物の面白さを子どもたちにも伝えていきたいです。

・園では様々な生き物を飼っていますが、私自身苦手としている生き物がいます。苦手、嫌いでも生き物が身近にいるということを活用し、子どもたちにとっても生き物がいることを心地よいと思えるよう、伝えていきたいと思います。

・環境(自然)教育の大切さを改めて気づく事がたくさんありました。私自身、虫が苦手で触れることができないものもあります。今日の講義を受けて、子どもたちと一緒に自然にふれあうことができるよう、視野を広げていきたいです。

・自分の園としても似た価値観、思考で講演を聞いて、共感するところがたくさんありました。子どもから見た自然を大切にしたいと思いました。五感を感じながら自然に触れ合って暮らせる毎日って本当に幸せで貴重なんだと思いました。

・自然というものを地球、宇宙レベルで捉え、話を聞くことができ、よかったです。視野を広く持って、物事を考えること“自然”その門を子どもたちにどうつたえて大切にしてもらえるのかのヒントを学ぶことが出来たように思います。

今回は園の現場で、子どもたちの目線で自然の大切さをどのように身近に感じ、心身の成長、育みに活かせるのかを、学びたいと思います

・今回の研修では、改めて自然体験の大切さを感じることができました。私は今、自分のクラスの子どもたちとオクラを育てているのですが、一緒に水やりをして育ったオクラを子どもたちが収穫をして調理をし、給食の一品として食べました。食べている子どもたちの表情を見て、このような機会を大切にしていきたいと思いました。また、これからは芋ほりを行います。この体験を、子どもたちにとってより良いものにしていくために、どのような働きかけをするべきなのか考え、とりくんでいきたいと思います。

・子どもたちの育ちにおける環境教育の重要性や環境教育に対する姿勢など、現在の自分の保育を振り返り考える良い機会になりました。

意識していないと子どもたちに伝えられないことが多いと思うので、子どもたちに伝えたいことや体験させたいこと等、自分でしっかりととらえて今後の保育で生かしていきたいです。

2回目、3回目では現場を見ての研修会ということで楽しみにしています。

・今回の研修で改めて自然の大切さを実感しました。

貴重なお話ありがとうございます。

一番身近にある一番大切なものを忘れていた気がします。

今回の研修で学んだことを保育に生かし、子どもたちに自然に少しでも興味・関心を持ち、好きになってもらいたいと思います。

・素敵なお話ありがとうございました。今後の保育に活かしていきたいと思います。生活や遊びの体験を大切に子どもと共に自然と触れていけたらと思いました。

・本日は研修に参加させていただきありがとうございました。

今まで知らなかった地球とヒトのルーツ、子どもたちへの視線を知り、改めて環境を通した教育というものを見直す良い機会とさせていただくことができました。

今後の保育にも生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

・子どもが園外で経験してレモンの味がする茎があることを知り、園内でも自分で見つけて、担任に「レモンの味する茎見つけたよー！」と嬉しそうにかんでいました。私自身まだ見分けがつかなかったもので、かんでみて、レモンの味はしませんでした。が、「レモンの味するかも！すごい見つけたね！」と言ってしまいました。うれしそうに話す子どもたちにどのようにして伝えていけばいいのか知りたいです。

また、その辺に生えている植物でのちよとした遊びを教えていただきたいです。

最後に、つかまえてきて、虫かごにずっと入れられていた虫が死んでしまったとき、その死んでしまった虫をどのようにしたらいいか知りたいです。

・この研修に参加して貴重なお話を聞かせていただいて、改めて自然環境はとても大切だなあと感じました。まずは保育者である私が、自然を好きになり、子どもたちが自然に興味や関心をもてるように、つながるように、関わっていけるよう頑張ろうと思いました。

今後の保育に生かしていきたいです。ありがとうございました。

・人間と自然は昔からずと続きあたりまえのことであることなので今も、自然体で生きる姿勢を大切にしていきたいと思います。

・私自身は、自然が大好きです。これは人間の本能ではないかと考え、人間全体、心地良いことではないでしょうか…本日、先生のお話は同感することばかりで、心の整理が出来心強く感じました。

・園庭の草取りも一時期中止をして、子どもたちに環境を与えることも時々しております。落葉も掃除を一週間くらいせず子ども達がどのように反応するか毎年しております。町の中の園ですのでいつもはきれいに清掃を心がけていますので、その点大人が子ども中心に考えねばと心がけるようにしておりますが、なかなか思うように行かない点が悩みです。(周囲に理解されない!!)

・ありがとうございました。次回もよろしく願い申し上げます。

・子どもたちと関わる中で、ついつい口を出したり、手を貸してしまったりしているなど思い返す中で…もう少し待って自ら体験して学ぶ経験を増やしていきたいと思います。

また私自身興味を持っていることが少ないので、もっと視野を広げていけたらと思います。

・写真を見る中で、自然豊かで様々な体験ができていいなと思いました。少し考えたり、こちらが工夫するだけで子どもたちも自然に興味を持つと思うので自分ができる自然体験の方法を見つけたいです。

・実際にあったことなどもとり入れてあり、その場面などを想像しながら話を聴くことができました。自分からまず自然を好きになり、子どもたちにも伝えていきたいと思いました。ありがとうございました。

- ・私たち大人が思っている考えを子どもたちに投げかけるだけでなく、体験すること、目の前で見てみるのが大切なことであると感じることができました。
- ・五感を通しての経験が、子どもたちにとって生活をしていくうえでも重要な働きかけをしていけるように、日々の保育で活かしていきたいです。
- ・自然体験をしていける環境にあることが、こんなにも子どもたちの成長を促す素敵なことであるということに感謝をし、その自然を私たち保育者が壊していくことなく、過ごしていきたいと思います。子どもたちと自然の中で多くの経験をし、知識として、興味を示していけることとして、触れ合っていこうと思います。
- ・今日のお話を聞いて、「体験する」ことが大切だと改めて感じました。そして「子どもは走って当たり前」という言葉に考えてみると当然なのに驚きました。自分は園で子どもたちに「廊下走っちゃだめだよ」と声を掛けています。しかし、自分はどうかと考えたときに、廊下を走っていることがよくあると思いました。この言葉を聴いて、「大人も走るのだから当然だな」と納得しました。園の方針もありますが、今日のお話で自分自身を振り返ることもできました。
- ・今回の研修を通して自然というものを考えたときに、宇宙からはじまり、人類の生まれた所からはじまって、本当に大きなものなのだと思います。私が働かせていただいている園は自然豊かで、季節を感じながら毎日過ごし、とても恵まれていると思っています。
- ・今の時期は黄緑ドングリがおちていたり、森の中にはカナヘビ、クワガタもまだいるので、子どもたちは自然の生き物と共に過ごしていて、遊びも広がっているのが、本当に大切にすべきものが自然だなと思って、今日より実感することができました。まだまだ、未熟だし、自然を理解し切れていないところもあるけれど、知りたい気持ちは持ち続けていきたいです。
- ・虫について、私は子どもがだんご虫などをとって、見せに来てくれた際、「かわいそうだから、お家にかえしてあげようか」と言ってしまっていたので、すぐにかえしてしまうのではなく、子どもたちと観察したりなど、一緒に自然と触れ合う機会を多く設けることが大切なのだと感じました。頭ではわかっているけど、時間に追われ、そのような機会を全然設けていなかったことにも気づかされました。子どもたちが、使わなくなっておもちゃにしているお弁当箱に大量のだんご虫を入れて、見せに来てくれるのですが、「おいしそう〜」と言っていいものか…、対応に困ることもあります。
- ・私が働いている園は、草・木などが少ない邦だと思ってしまうので、ボサボサ園庭の話聞いて、とても面白いと感じました。朝の掃除で草取りをすることもありますが、園庭の一部だけでも空間を作ると昆虫が集まってきそうであると思いました。
- ・園でのエピソードなど、実際の話をついながら、楽しく内容の濃い時間でした。次回の見学なども、楽しみにしております。
- ・生き物を飼ったり、植物を育てたりするだけでなく、空気の冷たさや温かさを感じたり、臭いを感じたりすることも自然体験の1つだと知り、少しずつですが園で取り入れられそうだなと感じました。
- ・うちの園では、草がのびたら、見た目が悪いのですぐ刈ります。ビオトープもありますが、安全の面から、立ち入り禁止の見ただけ。いもほりのときも、子どもの掘りやすさや、効率性を考えて、つるはいもほりの前に保育者がすべて切ります。いろんな場面で、子どもの自然の体験を保育者が減らしてしまっているんだなと思いました。
- ・どうして環境を身近に感じられる保育をできるのか、基本的な事をもう一度学べてよかったです。大学時代は今ほど真剣に保育の事を考えず、なんとなく授業を受けていることが多いので、働き始めてからまたこうして学べる機会があるのは経験年数の浅い先生にとってはとてもありがたいです。
- ・園庭に生えている雑草1つでも、それで虫が寄ってきたり、いろんな生物がきたりして、自然は身近にいくらでもあるんだなと思いました。
- ・今の世の中は五感をあまり使わないなと思いました。それによって子どもの感情や感覚などが鈍くなっていると感じました。園でもあまり草花がありませんが、少しの草むらの中で子どもたちは虫を見つけています。どうしても私たちは、お片付けの時間になると、必死で虫を探している子たちの手を止め、お片付けをさせようとしてしまいます。子どもの気持ちを受けとめてからが大切だと改めて感じました。
- ・今回、研修に参加させて頂き自然体験をすることの大切さを改めて実感しました。今の子どもたちは、制限されていることもあったりするので、存在しているのに知らないことも多くあるのではないかと思います。幼児教育、幼児期のうちに色々なことを体験し、その経験を通して育って行ってほしいと深く思ったので、したいことはたくさん経験させてあげたい。また、保育者がすぐに答えを出すのではなく、「育ちを待つ」ということにも学ばせて頂きました。分かるためには体験してみないと分からないので、まず子どもたちが興味・関心、「してみたい！」

と言い、気持ちもちが持てるような保育を心がけていきたいです。自然にたくさん触れ合わせてあげたいと思いました。ありがとうございました。

・今回の研修を通して、幼児期の環境（自然）教育の重要性を感じました。

普段保育をするときに、「花はとってはいけない」や「廊下は走らない」など、社会のルールによって注意してしまいがちですが、子どもたちが自然に触れ合うことによって興味を持ち、保育者自身が自然を好きになることによって、子どもたちが実体験できる環境づくりに取り組んでいきたいと思いました。豊かな自然体験は、幼児期に五感を使い、体験し、感じることによって変えていけることだと思うので、まずは、今ある園での自然体験への取り組み方を変え、自然を身近なものにしていきたいと思います。本日はとても勉強になる研修会に参加させていただきありがとうございました。

・私の園は自然環境が豊かな園であるが、今回牧原先生のお話を聴いて、その環境をうまく活用できている面もあれば、そうでなかった面があることにも気づくことができました。子どもたちが自ら体験してみるということを通してこれから保育をしていきたいと思いました。

・研修に参加させていただいて、とても勉強になりました。私は、自然が好きで、子どもたちと色々な虫を育てたりしていますが、今回のお話を聴いて、もっともっと子どもたちと色々な経験をしていきたいなあと思いました。今、ドングリの虫にいる虫に興味があり、子どもたちと育ててみたいと思います。また、今、6月にザリガニ釣りで釣ったザリガニをずっと飼っていて、たまごを生んで孵化するのを楽しみにしています。生まれてきた赤ちゃんをうまく育てるコツはありますか？

・最近知人から「子どもが小さい時『毛虫はそっと優しく持ったら刺されないんだよ』と言って手の中に入れていた」という話を聞きました。子どもが自然と同化できる一番近い存在であると感じた話でした。

大人の経験値による常識ではなく、子どもの率直な感覚を大切にしていかななくてはいけないと思います。

・例年のような戸外での研修会ではなかったもので、どういう内容かな、と思いましたが、戸外では自然体験の中での「すごい!」「ふしぎ!」が溢れているものの、「自然、人間、アプローチ」などの内容を頭に残っていませんでした。(あまり・・・)自然の中ではない環境で「自然について改めて考える」という今回の機会では、今までこの研修会で、おそらくあたりまえとしてきたことをもう一度落ち着いて考えることができました。「センス・オブ・ワンダー」、私の大切な一冊です。次回も楽しみにしています。ありがとうございました。

・こういう基礎研修会を、年度当初やるのはとても良いと思います。パワーポイントは分かりやすくて良い!!

・普段保育の中で自然を大切にしている園なので、この研修で学んだことを活かせるよう考えてみようと思います。環境(自然)は大きくて深いなと感じた。

・最近虫が少し触れるようになりました。触ってみて初めて嬉しさや感触が伝わってきました。その喜びを子ども自身に感じて欲しいと思いました。

・「幼児期における環境(自然体験)教育とは？」研修ありがとうございました。私は一年目の宿泊研修の時にも牧原先生からお話を伺っていました。その時も年長児の男の子が「バッタが逃げちゃうから草刈なんてしちゃダメ!」ということを言われたということ話を話してくださっていて、とても印象的だったことを覚えています。大人はいろいろ見た目などを気にして、環境を作り上げようとしてしまいがちだと感じました。子どもたちと育っていくにあたって、できる限り自然の豊かな体験ができるように考えていきたいと思いました。

・月や週のねらいに、自然に興味や関心を持つなどの内容がありますが、そのことについて、いつもどう子どもたちが関わっていったり興味を持ったりしていけるのか、ということを考えているつもりでは、ありましたが、改めて自然の大切さや、おもしろさ、知ることのおもしろさを子どもたちにも伝えていきたいし、私自身、感じていきたいと思いました。2、3回の研修で、実際に体験できることを、楽しみにしています。

・子どもたちと関わる中で、自然の面白さに気づいて私たちにも教えてくれたことも、もしかしたら共感できていなかったかもしれないと、自分の保育を振り返って感じました。植物や生物と関わることを大切にしながら、今後の保育に繋げて行こうと思います。私たちと同じ生き物と一緒に生活をする、という気持ちを大切にしたいと感じました。今回の研修で教えていただいた、生き物の面白さを子どもたちにも伝えていきたいです。

・園では様々な生き物を飼っていますが、私自身苦手としている生き物がいます。苦手、嫌いでも生き物が身近にいるということを活用し、子どもたちにとっても生き物がいることを心地よいと思えるよう、伝えていきたいと思います。

・環境(自然)教育の大切さを改めて気づく事がたくさんありました。私自身、虫が苦手で触れることができないものもあります。今日の講義を受けて、子どもたちと一緒に自然にふれあうことができるよう、視野を広げていきたいです。

・自分の園としても似た価値観、思考で講演を聞いて、共感するところがたくさんありました。子どもから見た

自然を大切にしたいと思いました。五感を感じながら自然に触れ合って暮らせる毎日って本当に幸せで貴重なんだと思いました。

・自然というものを地球、宇宙レベルで捉え、話を聞くことができ、よかったです。視野を広く持って、物事を考えること“自然”その門を子どもたちにどうつたえて大切にしてもらえるのかのヒントを学ぶことが出来たように思います。次回は園の現場で、子どもたちの目線で自然の大切さをどのように身近に感じ、心身の成長、育みに活かせるのかを、学びたいと思います